

事務事業名		高齢者配食サービス事業		所属部	健康福祉部	所属課	長寿障がい福祉課
総合計画体系	政策名	(Ⅲ)支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》		所属G	高齢者福祉G	課長名	石飛 和宏
	施策名	(22)高齢者福祉の充実		担当者名	武田 遼太	電話番号	0854-40-1042 (内線) 2153
	目的:対象	65歳以上の市民	意図	生きがいを持って、いきいきと暮らす。	予算科目	011508 大事業名 地域自立生活支援事業	
	基本事業名	(065)地域ケア体制の充実		056701 中事業名 ネットワーク形成事業			
目的:対象	65歳以上の市民	意図	住み慣れた地域で安心して暮らす。				

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 ( 年度～ )
<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 18 年度～ 29 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
調理が困難な高齢者及び栄養改善が必要な高齢者に対して、介護予防プラン又は居宅介護サービス計画に基づき、一人週5回の範囲で地域のボランティアによる食事の提供と安否確認を行い、在宅で自立した生活を送ることができるよう支援する。自己負担 540円/食

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	29年度実績(29年度に行った主な活動) ・事業の実施を雲南市社会福祉協議会、よしだ福祉会に委託。 ・平成28年度に引き続き、三刀屋町全域及びモデル地区において地域自主組織での配食及び安否確認を実施し、地域における見守り活動の推進した。 ・委託から補助金に向けた関係機関との協議	30年度計画(30年度に計画する主な活動) 「配食による見守り活動推進事業」に移行				
	② 活動指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
ア	実利用人数	人	146	133	101	
イ	延食数	食	13,358	12,654	10,006	
ウ						
エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	次のいずれかに該当する方であって、栄養改善の必要な方 ・高齢者の単身世帯 ・高齢者のみの世帯及び準ずる世帯 ・障がい者で自立支援及び栄養改善等の必要があると市長が認めた方		ア	65歳以上の独居者数(4月1日現在)	人	2,131	2,274
	イ	65歳以上のみ世帯の人数(4月1日現在)	人	3,718	3,831	3,993	
	ウ						
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	高齢者の食生活の改善 社会的孤立感の解消	ア	地域との交流があると感じる高齢者の割合	%	72.6	71.5	70.9
		イ	生きがいを感じている高齢者の割合	%	77.8	66.1	68.0
		ウ					

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (29年度決算)	② コストの推移	単位	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(計画)
委託料 13,612千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
【その他財源】 地域支援事業受託料 8,219千円 老人福祉サービス利用料 5,393千円		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円	14,601	14,105	13,612
		一般財源	千円	2,142	1,898	
		事業費計 (A)	千円	16,743	16,003	13,612
	人件費	正規職員従事人数	人	3	6	8
		延べ業務時間	時間	231	348	348
		人件費計 (B)	千円	904	1,381	1,419
		トータルコスト(A)+(B)	千円	17,647	17,384	15,031

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
高齢者及び高齢者のみの世帯は増加しているも、病態像の多様化等により必要とされる食事の内容も多様化している。	・配食の回数統一を行った。 ・三刀屋町全域及びモデル地区において、地域自主組織での配食及び安否確認を実施し、地域における見守り活動の推進を図った。 ・平成29年度より弁当代を全額利用者負担とすることとした。 ・平成30年度より見守り活動推進補助金へ移行	対象者要件の一つである栄養改善の必要性の解釈が難しく、利用者の増加につながらない。結果、地域での見守り活動にもつながらないし、ボランティアや弁当代業者の確保等も困難になってきている。業者弁当代が多く内容に不満の声もある。

事務事業名	高齢者配食サービス事業	所属部	健康福祉部	所属課	長寿障がい福祉課
-------	-------------	-----	-------	-----	----------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由 治療食等、真に求められる食の提供に対応できていない。また、市場やボランティア団体、地域で食の提供をするところが出てきており調整が必要である。																	
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒																		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？																			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？																			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒																		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？																			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由 高齢者の必要性に応じた配食がなされているか定期的に確認・見直しを行っていく必要がある。																		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない																			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？																			
<input type="checkbox"/> 影響無	理由 事業を廃止することにより、栄養不良等で在宅生活の継続に困難や不安のある高齢者の増加が予想される。																			
<input checked="" type="checkbox"/> 影響有																				
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名) 市場やボランティア団体、地域が行っている食の提供サービス																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由 今後、調整が必要である。																		
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 食事の内容や、配食の方法については委託事業所との協議等により地域資源を活用した方法への見直しを行った。																		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない																			
B 有効性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 委託事業から補助事業へ移行することで、実施主体により利用者の決定を行うこととなるため、利用者の決定に関する業務が削減される。																		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がない																			
C 効率性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？																			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由 雲南市全域で行っている事業。またサービス調整を目的とした会議により必要な高齢者を対象に事業を行っており、公平・公正におこなっている。費用負担も見直しにより現在の負担額となっている。																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である																			
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 配食の方法、内容等については関係機関との協議により補助事業への移行を行った。																	
	A 目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
評価 の 総 括	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
	C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
	D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																		
	② 改革・改善による期待成果																			
① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持		×	低下	×	×
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上																			
	維持		×																	
	低下	×	×																	
<input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																				
配食の方法、内容等については関係機関との協議により、平成30年度より社会福祉法人や地域自主組織等を実施主体とする補助事業への移行を行った。																				
<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																				

## 3 今後の方向性【PLAN】